



機械科生徒が大学講義

機械科生徒が、新潟大学工学部 教授 松原幸治 様から、専門分野の技術を活用して将来、課題を解決するために必要な力を身につけるために エネルギー変換工学「熱機関の基礎と応用例」の講義を受けた。



【講義風景-1】



【講義風景-2】

【生徒の感想】

- ・ 大気のが想像以上に強いことが印象に残った。
- ・ 今までの授業に出てきた用語があってわかりやすかったです。
- ・ ちょっとした興味からすごい発明につながる事がわかった。
- ・ エンジンは自分の好きな分野なので歴史を知れてよかったです。
- ・ 普段の原動機の授業と実習の内容とつながっていたのでわかりやすかった。
- ・ トリチェリーが10mの井戸から水を吸い上げようとしても上がらないことを説明した話が印象に残った。
- ・ 松原先生が何回も興味を持ち挑戦することが大切と言っていたので自分もそうしようと思った。
- ・ 新潟大学でのマイクロジェットエンジンの研究がおもしろそうだった。
- ・ 興味を持つことが大事なんだと思った。
- ・ エンジンはかなり昔から使われていることが分かった。
- ・ ガスタービンをつんだドローンの研究についておもしろそうだった。
- ・ エンジンができるまでの歴史を知ることができた。長い歴史で驚いた。

【職員の感想】

- ・ 1年目「自然エネルギー利用の現状と熱力学的な考え方」2年目「熱交換器における流れと伝熱現象」と3年目「エネルギー変換工学「熱機関の基礎と応用例」」と継続的に熱力学を教えていただいた。1年目にいきなりエントロピーの増大について説明していただいたときは生徒がついていけるかと思ったが、機械科の生徒は熱の流れについて興味を持てたと回答している。SPHの特別な取り組みは今年度で終了するが、今後もこのような大学講義が人材育成に必要なと思うのでできれば継続していきたい。

